

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：貿易統計（9月）

発表日：10月26日（水）

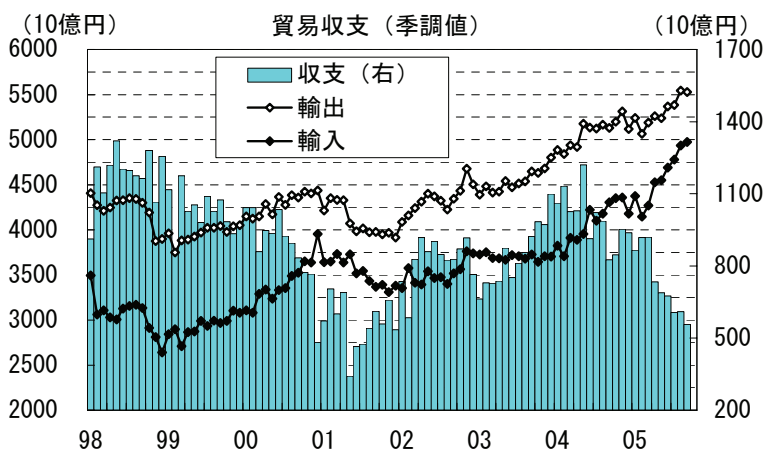
～ 輸出は徐々に伸びを高めつつある ～

(No. J-143)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528



(出所：貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
04年9月	825	5131	4306	1213
10月	846	5199	4353	1154
11月	953	5313	4360	597
12月	938	5117	4179	1133
05年1月	866	5240	4374	194
2月	918	5064	4145	1090
3月	920	5190	4270	1119
4月	733	5261	4527	958
5月	689	5238	4550	293
6月	676	5368	4692	869
7月	607	5386	4779	869
8月	611	5544	4934	114
9月	556	5529	4973	957

(出所：貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
04年 9月	12.1	0.5	11.5	7.2	4.7	16.5	12.5	8.5	3.7	17.1	▲ 2.7	8.8
10月	11.7	7.0	4.3	▲ 3.7	1.2	7.9	12.7	12.1	0.6	40.7	▲ 5.4	▲ 2.2
11月	13.4	7.6	5.3	2.8	3.1	13.6	28.1	11.8	14.6	10.6	11.8	16.0
12月	8.8	5.9	2.7	0.5	3.2	6.8	11.1	8.1	2.8	16.6	▲ 0.3	4.5
05年 1月	3.2	6.5	▲ 3.1	▲ 5.2	▲ 14.6	▲ 1.5	11.4	8.7	2.5	▲ 0.5	4.2	4.9
2月	1.7	6.1	▲ 4.2	2.3	▲ 6.7	▲ 3.7	11.4	6.6	4.5	4.5	▲ 3.4	12.2
3月	6.1	4.9	1.1	3.4	▲ 9.2	1.0	7.7	6.0	1.6	▲ 1.2	▲ 5.1	4.7
4月	7.8	9.3	▲ 1.4	0.8	▲ 2.5	▲ 1.9	12.8	13.4	▲ 0.6	▲ 4.2	2.5	2.7
5月	1.4	4.0	▲ 2.5	2.0	▲ 7.8	▲ 5.0	18.7	9.2	8.7	6.8	3.5	11.0
6月	3.6	3.1	0.5	2.4	▲ 8.8	▲ 0.6	11.1	8.9	2.0	▲ 0.1	▲ 2.3	6.0
7月	4.3	5.1	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 2.8	▲ 4.5	11.7	12.4	▲ 0.6	7.1	▲ 4.8	▲ 1.0
8月	9.1	7.0	2.0	3.6	▲ 1.2	1.0	21.2	11.0	9.2	8.9	6.6	12.7
9月	8.8	7.6	1.2	3.4	▲ 2.7	▲ 3.2	17.4	13.1	3.8	3.7	4.7	3.7

○ 原油高により貿易黒字は縮小も、輸出は増加

9月の輸出金額は前年比+8.8%、輸入金額は+17.4%、貿易黒字額は前年比▲21.1%となり、市場コンセンサス（輸出+5.8%、輸入+15.9%、貿易黒字▲31.4%）を上回った。貿易黒字は引き続き原油高の影響で減少しているが、最も注目されていた輸出に関しては高めの伸びとなっており、比較的強めの結果といえるだろう。輸出数量指数が前年比+1.2%と2ヶ月連続で増加しているほか、日本銀行が作成している実質輸出も8月に季調済み前月比で+3.3%と高い伸びとなった後にもかかわらず9月も同+0.7%と増加した。足元で輸出は徐々に伸びを高めつつあるようだ。

○ 目立つ中国向けの改善

輸出の内訳をみると、このところ改善が目立つのが、国別では中国向け、財別ではIT関連財だ。中国向

け輸出は昨年末からの輸出低迷の大きな要因だっただけに好材料である。中国向け輸出金額をみると、5月に前年比横ばいまで鈍化した後、6月同+2.2%、7月同+6.6%、8月同+17.7%、9月同+14.4%と持ち直しが明確だ。中国の引き締め政策の影響もようやく一巡してきた可能性がある。また、中国での在庫調整に関しても、水準自体は依然として高いものの方向としては在庫は減少に向かっている。特に建設用機械などの伸びが高い。中国向け輸出は全体として最悪期を脱したようだ。また、IT関連財に関しても、改善ペースはさほどではないものの緩やかに持ち直している。11月28日公表予定の9月鉱工業生産では、生産予測指数からすると電子部品・デバイス生産が大幅に増加する見込みとなっているが、これは世界的なIT部門の在庫調整の進捗を背景に東アジアの産業内貿易が復調してきたことが影響しているとみられる。

輸出の動向に先行する傾向のある指標をみても、OECD景気先行指数、米国ISM製造業新規受注、北米半導体製造装置BBレシオなどでは足元改善が見られるなど、輸出を取り巻く環境は明らかに改善している。輸出は今後、改善傾向を次第にはっきりさせてくるだろう。

○ 7-9月期のQE外需寄与度も横這い～小幅プラスか

SNAでは、財の輸出入だけでなくサービス輸出入も加味して計算されている。これと同じ方法で計算したところ、7-9月期の実質輸出は+3.2%、実質輸入が+3.2%となった。輸出に関しては、4-6月期の前期比+2.9%に続いて2四半期連続で高い伸びであり、足元における輸出の持ち直しを確認する内容になりそうだ。輸入デフレーターの設定の仕方によって結果は多少変わるが、外需寄与度も+0.1%ポイントと2四半期連続でのプラスが予想され、7-9月期のGDPを若干押し上げる材料になると思われる。

